



絵はがきの福島風景

空も水もきれいな

みどりのまちをつくりましょう

教育と文化を尊び

希望に輝くまちをつくりましょう

親切で愛情あふれるまちをつくりましょう

きまりを守り、力をあわせて

楽しく働けるまちをつくりましょう

子どもからおとしよりまで

安全で健康なまちをつくりましょう

今年の4月、私は原発事故後はじめて福島市を訪問しました。その時に、福島YWCAの会長・渡辺園子さんが、福島市の風景を写した一枚の美しい絵はがきをくださいました。その裏に書かれてあったのが、この文章です。それは、1973年（昭和48年）4月1日に福島市で定められた「福島市民憲章」でした。

その時、福島市はまだ寒さが残り、しかし山

や木は春に向かう喜びに満ちて、まるでその絵はがきの景色そのものでした。40年前にこのようなビジョンを掲げた町で、どうしてこんなことが起きてしまったのか。放射能汚染のなんたるかもわかっていない私でしたが、その邪悪さ、理不尽さに泣きたくなくなったことを覚えています。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

11月末、福島からの週末避難の可能性を探るため、隣県・山形の米沢市を訪問しました。福島からの避難者は、約4,000人、その多くは自主避難の母子とのことです。様々な事情を抱えつつ福島を離れざるをえなかったお母様方と話しながら、8か月たった今もまだ、「復興」のとぼ口にも立っていないのだと改めて感じました。

福島の方々との長い関わりになりそうです。改めて、皆様のお祈りとご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。（西本）

